

信州大学サポーターズクラブメルマガ第95号 2021年6月30日

信州大学サポーターズクラブ

メルマガジン 第95号

信州大学サポーターズクラブ事務局

2021年6月30日

-----毎月月末に配信しています-----

【 I N D E X 】

名誉教授より皆さんへ

信大からのお知らせ

信州の景色

■=====【名誉教授より皆さんへ】=====■

今回は全学教育機構の名誉教授である坂本保富先生よりご寄稿いただきました。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

■=====【信大からのお知らせ】=====■

~~~~~  
みんなでつくる住宅浸水直後の行動手順書～  
できる・やれる・あきらめない～が開催されます  
~~~~~

近年の大雨被害により、浸水被害を受ける可能性が高まっています。ニュースやインターネットでも、街中のマンホールから大量の水が溢れている映像や、用水路の水が増大して、様子を見に来た方が怪我をした、といったニュースが報道されたのを聞いたことがあると思います。万が一の水害に備えて、誰でも「できる・やれる・あきらめない」ための浸水時の行動手順書とその活用方法を考えるイベントがオンラインで開催予定です。

○詳細はこちら

<https://www.shinshu-u.ac.jp/project/livinglab/event/156819.html>

梅雨の晴れ間のある一日

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

【 F B 】 <https://www.facebook.com/shindai.koyukai>

2021. 6. 30



信州大学サポーターズクラブ【名誉教授よりみなさんへ】第95号

戦い済んで日が暮れて－信大を退職後の私

信州大学名誉教授 坂本保富

信大を定年退職して、はや9年目。埼玉の浦和から、夕陽の輝く北西の空を仰ぎ、信大でのあれこれを思い浮かべながら、原稿執筆の日々を送っております。今にして思えば、信大時代は、研究者としての私にとって、**“実りの秋”**でした。多数の論文や著書を執筆し、NHKなどのテレビに出演したり、様々な新聞雑誌に雑文を書き、全国各地で300回を超える講演をしました。

昨春、再就職した私立大学・平成国際大学（埼玉栄高校、花咲徳栄高校、栄東高校など、スポーツや進学で有名な高校を擁する佐藤栄学園の大学）を依頼退職しました。同大では研究と教育の職務を全うしながら、定員割れした赤字経営の大学再建に挺身しました。実は、私が企図して推進した改革の種は、全てが信大で試行錯誤した改革策（大学市民開放・全学教育機構の誕生と教職教育部の創設・教員免許更新講習の実施・取得可能な教員免許の拡大充実・外国有名大学との連携協定・大学と地域市町村との連携協定・教員の教育研究活動の評価、等々）であり、それに優秀な体育系学生が圧倒的多数を占める現実を活かして、法学部の他にスポーツ健康学部を新設し、待望の体育教員の養成を本格化させたのです。

当初の契約期間である5年が過ぎた頃には、改革の苦勞が実り、受験生が定員を遙かに超えて、適性のある学生を選抜できる黒字の大学に変身しました。実に埼玉の奇跡でした。

そこで、約束通り70歳での退職を願いました。が、学園側は、なおも現役教授に留まることを要請したのです。しかし、首・腰・脚など長年の職業病とも言える幾つもの病気を治すこと、そして研究人生を総括する著書を書き上げて出版し、後世の人々に遺すべく、約束より2年遅れで依頼退職が実現した次第です。7年間という短期間の在職ながら、大学改革の功績をもって特別に感謝状を頂き、栄えある名誉教授となりました。信大に続く二つ目の称号でした。

そんな私も本年6月で満74歳。42年間の大学人生を終えた今は、1日24時間、全てが自由の毎日。50数年前の学生時代に戻ったような生活です。学生のときはお金がなく貧乏でしたが、今は年金や貯金などがあって経済的な苦勞はなく、実に有難いことです。でも、原稿を執筆できる知的能力は健在ですが、身体能力は年ごとに低下し、50代は10時間、60代は8時間、原稿を書き続けられました。が、頸椎脊柱管や腰部脊柱管の狭窄症の闘病生活を送る今は、残念ながら5時間程度が身体的限界となりました。病身とは言え、何人も迫り来る老化には勝てません。

現在は、『佐久間象山研究ⅠⅡⅢ』（A5判500頁で3冊）、『幕末洋学史研究』（A5判500頁で上下2冊）の既刊論文の原稿を、著書の原稿用に加筆訂正しております。これを実現した後は、さらに恩師たちと同じく「著作集」（全10巻程度）を刊行して拙い一期の研究人生を飾りたい。そんな叶わぬ夢を思い描きながら、今、鏡に映った私に、「あなたは、悩み迷いながらも、広く深く思索し、根気強く書き連ね、そして多くを語り伝える幸せな人生を生きましたね!」と、黙して誉め讃えてあげたい。そんな私が、今、信大の学生諸君に捧げる言葉は、“Don't forget, I love me.”

信州大学サポーターズクラブ【信州の風景】第95号

公園では白や薄い水色、薄い紫、濃い紫、黄色など様々な色のあやめが咲き誇っていて、訪れたお客さんの目を楽しませていました。



あやめってたくさん種類があるな。と思いつつ園内を歩いていると案内の看板が出ており、次のように説明していました。『「アヤメ」「ショウブ」は「ハナショウブ」とは別の植物ですが、地域によって「花菖蒲」の「花」を省略して「あやめ」「しょうぶ」とも呼びますので、当園では一般的に「あやめ」と呼んでおります。』あれ？そうだったの？とびっくりしました。ずっと「アヤメ」が有名な公園だと思っていたのです。



看板では花菖蒲についても説明していました。『花菖蒲は、日本在来の野生種、「花かつみ（ノハナショウブ）」を元に、江戸時代後期から品種改良が始まった園芸品種群です。』とありました。そこで更に調べたところ、花菖蒲の特徴は色が多彩であり、現在 2000 種ほどの品種が栽培されている。ということが分かりました。こちらの公園では町おこしの一環で昭和 55 年ごろから花菖蒲の栽培が始まり、現在では安曇野市あやめ保存会の方々により 50 余品種の栽培と保存の活動が続けられているとのことでした。



梅雨の晴れ間に、思わぬ事実には驚きながらも、様々な品種と色の「あやめ」を楽しむことができました。来年もたくさんのお花を咲かせて、訪れる方の目を楽しませてほしいと思いました。